

2026年7月吉日

株式会社シード・プランニング

医療デジタルツイン市場の現状を調査、  
市場形成は限定用途型 DT から段階的に進む  
～市場形成を左右する成立条件や有望領域、今後の事業機会を分析～

2026年版 医療デジタルツインの現状を調査

－社会実装の進展と事業機会の成立構造－



株式会社シード・プランニング（本社：東京都文京区、代表取締役社長：梅田 佳夫）は医療デジタルツイン（DT）市場について調査を実施し、市場形成の構造や成立条件、有望領域について分析しました。

医療デジタルツインは、患者や臓器、疾患、医療プロセスをデジタル空間上に再現し、診断・治療・研究開発・教育などを支援する技術として注目されています。一方で、医療デジタルツインの定義や対象範囲はまだ揺れており、将来構想から実装が進む技術までが混在していることから、市場全体を一括りに評価することは困難です。

今回の調査では、医療デジタルツイン市場を「臨床実装」「研究開発・規制対応」「データ基盤・エコシステム」の3層構造から整理するとともに、用途別の成熟度、主要プレイヤー、市場形成の成立条件、有望領域について分析しました。その結果、技術動向だけではなく、データ、検証・評価、規制、ワークフロー、ROIなど、市場形成を左右する条件を整理し、今後の市場形成の方向性を明らかにしました。

●調査の詳細はこちら

<https://www.seedplanning.co.jp/news/6402/>

## ◆調査の背景と目的

医療デジタルツインは、AI、リアルワールドデータ（RWD）、医療DX、in silico trialなどの進展を背景に注目が高まっています。しかし、その対象は患者個別モデルから全身デジタルツインまで幅広く、技術成熟度や実用化段階もさまざまであるため、市場全体を正しく把握することは容易ではありません。

また、市場形成には技術だけでなく、臨床での有効性検証（validation）、規制対応、診療ワークフローへの適合、データ整備、費用対効果（ROI）など、多様な成立条件が関係しています。

本調査では、医療デジタルツイン市場を構造的に整理するとともに、市場形成が進む領域と中長期テーマを明確化し、今後の市場展開や事業機会を分析しました。

## ◆調査トピックス

- 医療デジタルツイン市場を、臨床実装・研究開発・規制対応・データ基盤の3層構造で整理
- データ、検証・評価、規制、ワークフロー、ROIなど、市場化を左右する成立条件を分析
- 市場化が進む有望領域と成熟度を分析
- 今後の市場は限定用途から疾患別、統合基盤へ段階的に発展

## ◆市場の整理状況について

### 【市場形成は限定用途型DTから始まる】



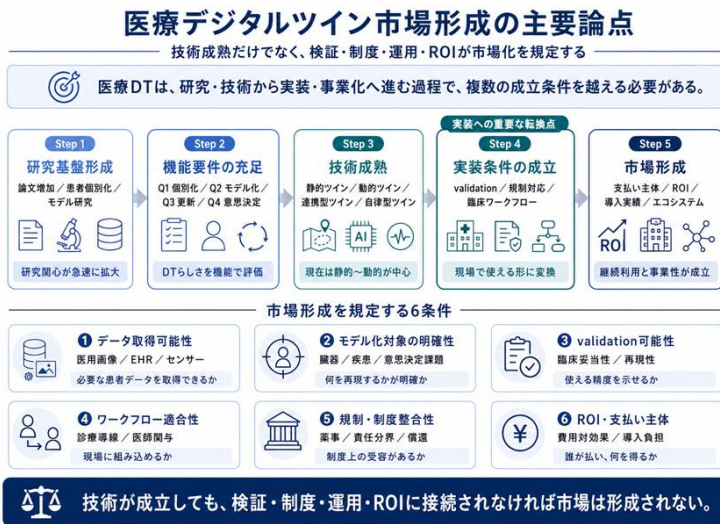
医療デジタルツインは、AIやシミュレーション技術の進展を背景に注目を集めていますが、市場全体が一気に立ち上がっているわけではありません。本調査では、市場を「臨床実装型」「研究開発・規制対応型」「データ基盤・エコシステム型」の3層構造で整理しました。

その結果、現在市場化が最も進んでいるのは、循環器領域の血流解析や術前計画、医療機器シミュレーション、

in silico trial など、対象と用途が明確な限定用途型デジタルツインであることが分かりました。本調査では、市場形成が先行する領域として、対象や用途が明確な医療デジタルツインを位置付けました。一方、全身デジタルツインや Virtual Human Twin (VHT) は将来性が期待されるものの、現時点では研究・基盤整備の段階にあります。

## 【市場拡大の鍵は技術だけではない】

### 医療デジタルツインの現状



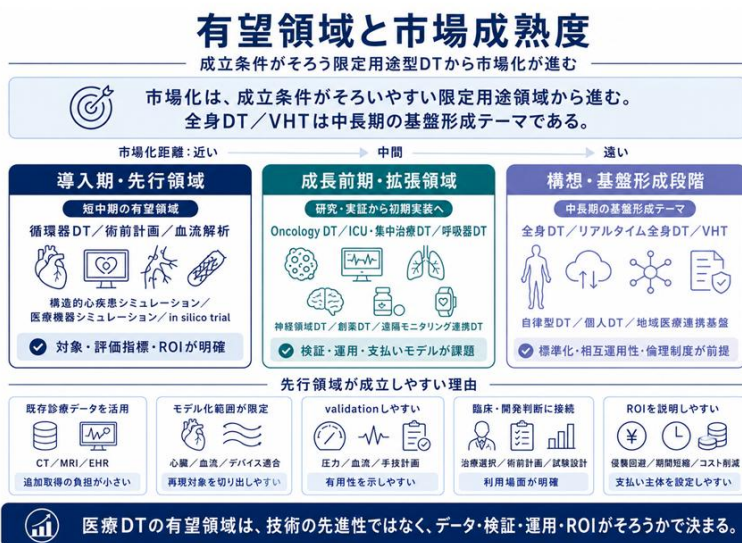
シード・プランニング調べ

医療デジタルツイン市場は、技術力だけで成長する市場ではありません。今回の分析では、市場定義の違い、実装領域ごとの成熟度、規制や制度との整合性、費用対効果、データ基盤、エコシステム形成など、多面的な要素が市場形成に大きく影響することを明らかにしました。

市場規模や成長率だけでは市場の実態を捉えることは難しく、導入施設数や規制承認、論文数、コンソーシアム形成なども含め、市場形成の進展度を多面的に評価する必要があることを示しています。

## 【先行市場と将来市場を整理】

### 医療デジタルツインの現状



シード・プランニング調べ

医療デジタルツイン市場では、すべての領域が同じ速度で市場化するわけではありません。本調査では、データ

取得のしやすさ、モデル化の容易性、検証可能性、臨床意思決定への接続性などを踏まえ、各領域の市場成熟度を整理しました。

循環器、術前計画、血流解析、医療機器シミュレーションなどは商用化が進む一方、Oncology DT や ICU、神経領域などは研究・実証から初期実装へ移行する段階にあります。また、全身デジタルツインや VHT は長期的な市場形成が期待される領域として位置付けられています。

## 【短期・中期・長期で事業機会が変化】



医療デジタルツイン市場は、短期・中期・長期で事業機会が大きく変化すると考えられます。短期的には循環器や術前計画など限定用途型デジタルツインが市場を牽引し、中期には疾患別・用途別デジタルツインへと拡大、さらに長期には医療データ基盤やエコシステムと連携した統合型デジタルツインへ発展していくことが期待されます。

そのため、医療機関、製薬・CRO、医療機器メーカー、IT・データ基盤事業者では、それぞれ異なるタイミングで事業機会が拡大すると考えられ、市場参入には自社の強みと市場成熟度を踏まえた戦略設計が重要になります。

## ◆調査概要

調査対象：

- ・医療デジタルツインおよび関連領域(virtual patient、in silico patient、patient-specific model 等)に関する研究論文のうち、患者個別化およびモデル・シミュレーション機能を有するもの。
- ・医療機器、診断・治療支援、手術計画、研究開発(in silico trial 等)におけるデジタルツイン関連の企業事例および実装事例。

調査方法：

- ・文献調査(主に PubMed 等の学術データベースを用いて収集した論文の収集・分析)
- ・公開情報調査(企業事例、業界レポート等のグレイリテラチャーの収集・整理)

・有識者ヒアリング(医療デジタルツイン、循環器領域のシミュレーション、臨床応用、研究開発・実装課題等に関する専門家へのインタビュー)

・対面またはウェブを利用したヒアリング調査 (インデプス・インタビュー)

調査項目：

・医療デジタルツインの市場定義/研究・技術動向の分析/臨床実装型 DT と主要プレイヤー/研究開発・規制対応型 DT の主要企業・実装実例など

調査期間：

2026年3月～2026年6月

資料についてのお問い合わせ

広報宣伝部 E-mail : koho@seedplanning.co.jp